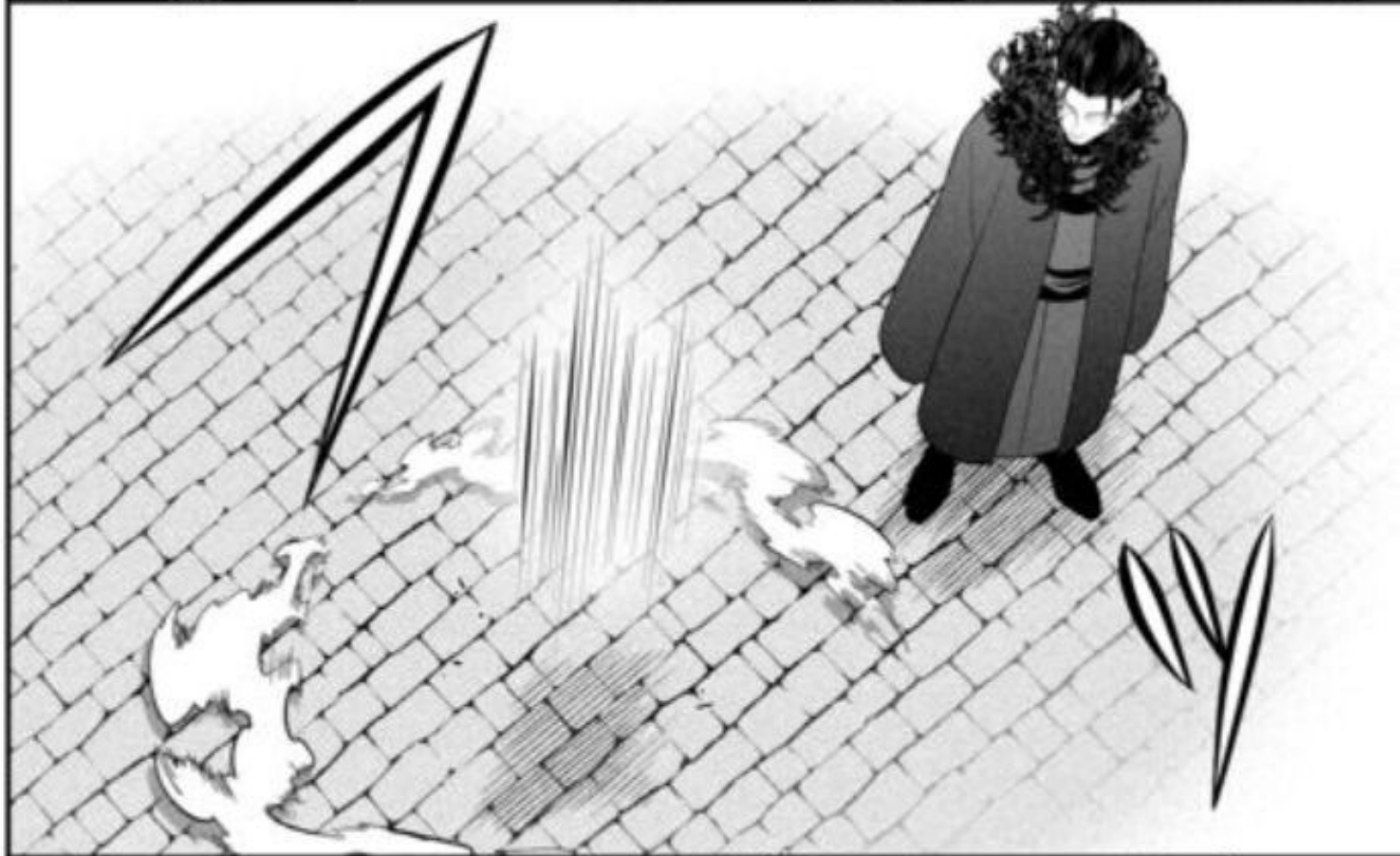


第7話







我ら
アル・ヴィースの
紋章を持って
いる……？

熱っ!!

これは
我らのもの

答えろ……

誰から
もらった？

……

それは……

私を産んだ
女性から
譲り受けました……

母君から？
健在なのか？



俺は…
彼女が望まずに
できた子で

捨てられて
孤児育ちです…

ですので
彼女とは親子の
関係では
ありません…



ただ…
彼女に最後に
会った時に
それをもらいました

父親のもの
だった…と…

— …



……
そうか…

……

無礼を承知で…



ひとつ…

お聞きしても
よろしい
でしょうか…



あの…





ええと…
き…キトラ…

フリン

それは
お返しします

もともと…
私のものでは
ありませんので

持ち主を
探そう

いいえ…
お気持ちだけで

……

ならば
受け取るが…

カイル

……

もったいない
お心遣い…
ありがとうございます…
ございます…

なんか…

思ったより
ずっといい人
だな…

これも
何かの縁だ…

何かあれば
私を頼るがいい

力に
なってやる



では…
失礼いたします…



……



え？

ネル伯爵が
国王に報告
しているのを
聞いたんだ



さっきは突然
どこに行ったかと
思ったら

魔族の長に
連れて行かれた
んだって？



へえー

王都にいる魔族の
縁者の暮らしに
興味があった
みたいで…



そういや…
伯爵を伝言役に
使ってしまった
んだって…

どんな話を？







見られている
気がしたが…

気のせいかな……

数日後…

カイルー

今日は
王女様やユキに
会わないの？

ああ…

ユアンの
頼まれ事で王宮に
来ただけだから

じゃあ
ニニギ…

すぐ戻るから
いい子にして
るんだぞ

わかったわ！

カイルも
知らない人に
ついてっちゃ
だめよ！

ユウカイ
されちゃう
から！

はは…

お母様ー！

！

陛下と
ダンテ夫人…

二人ともだいぶ
元気になった
ようだな…

お行儀が
悪いぞと陛下

魔族との交流も
うまくいって
いるようだし

喜ばしい
ことだ…



無事遣いも
終わったし
早いところ
帰るか…



さて…



ああ…



怖い顔を
なさないで



危害を加える
つもりは
ないんです
カイル殿…



誰だ







私には
影に紛れたり

遠くを見たり

気配を
辿ったりする
力があります

あなたの
血を少し
いただだけで

母君の
行方を辿る
ことができます…

どうです？
試して
みませんか？

しかし…
あなたになんの
得が？

主があなたを
気に入っている
ようなのでね

親切にして
心証をよくして
おきたいんですよ

あとは
あなたの上司の
歡心を買いたい
んです

辺境伯は…
あなたとずいぶん
懇意でいらつしやる
ようですし…？

……

知りすぎて
いる…

信用して
いいのか？

でも…





やはり
あなたは…

そうですか…



しかし…
あなたがキトラ様の
・・・
そうだとわかった
以上は

私はあなたの
味方です

安心して
ください



あの…

申し訳
ありません！

あまりに
美味しくて
つい…



さて…

それでは
約束を果たすと
いたしましょう



…？
なんのこと
です…？

今にわかり
ますよ



一体いつまで
ここにいれば
いいというの！

早く出して！

コンスタンツェ……



ロシュインを
返して！



私のたった
一人の息子を……！



……
カムイ殿……

彼女には
息子が…

私と半分
血の繋がった弟が
いるんですが

そちらの
居場所も
分かりますか…？

えーっと

ああ…

お二人とも
この辺り
ですねえ

同じ屋敷に
いるみたい
ですよ

！

この屋敷は…

……

探しに行くなら
私も行きま
しょうか！？

役に立ち
ますよっ！
私っ

いえ

ご親切はどうか
ここまでで……

失礼します















ずっと気がかり
だった…

三年前：
親しい人間しか
知らなかった
俺とアルフの関係を

コンスタンツェに
囁いたのは
誰だったのか



ネル伯爵家の
所有物だ…



ハインツは
昔からアルフを
嫌っていたし

俺にも何かと
絡んできていた



コンスタンツェと
再会した夜会にも
ハインツはいたし…

夜会で彼女と
知り合った
ハインツが

彼女が俺の
産みの母親だと
知り

俺への嫌がらせに
彼女をそそのかして
仕向けたとしても
おかしくはない

少々強引な
推察だが…

彼女を
監禁してまで
隠匿したい事情が
あるのは確かだ…

なんに
しても
ハインツに

とにかく
彼女から話を
聞かないとな

これから君の
母君を助けに
向かう

ここで
隠れて待つて
いてくれ

それと…
君の無事を
伝えてあげたい

母君が
君からの伝言だと
わかる何かがあれば
教えてくれないか？

うん…

「母上の焼いて
くれたクッキーが
食べたい」って

そう伝えて
ほしい…

僕の名前は
ロシユイン…

宝物っていう
意味の古い言葉
なんだよ





あなたの
息子も無事だ

ロシユインは…

あなたの焼いた
クッキーが食べたい
と言っていた



ロシユイン…!

母上!

ご無事で……



すごい……
飛竜ってこんなに
高く飛べるんだ！

……

どこへ
向かって
いるの？

辺境伯の
王都の別邸です

！

閣下は
あなたに聞きたい
ことがあると
仰せだ

あとで詳しく
説明するし

あなたにも
全てを説明して
もらう

……

この道を
真っすぐ行けば
じき辺境伯の
屋敷です

同行して
いただけ
ますね……？









カイル……!



これは
どういうことだ…



長——!!

先ほど
申し上げた
通りです!

刺され
ちゃつて
ですね!!



いや助けて
もらった相手を
いきなり刺すとか
思わないでしょ!?

お前を八つ裂きに
するのはあとだ

屋敷に運ぶぞ…
今すぐ!



その
ドラゴン



カムイ…

辺境伯に
伝えろ

この者の
身柄は私が
預かると

わ……っ

わかったわ

あなた
ユウカイハン
なのね!?

ちょwww
キトラ様www
なんだかとても
悪党っぽい
ですwww

違う！
誰が悪党だ

もういい……

とにかく今は
こいつの止血が
先だ

寒い…

喉が渴いた

お腹が空いた…



爺ちゃん…

キース…





アルフ……



触れられる
だけで幸せになる

あたたかい

アルフの手……



違う……

この手は……

あるふじや…

ない…

気が
付いたか…

き…とら…

あ…

や…だ…

や…























人間が…



イルヴァ辺境伯が
来ています



!!

へえ？
訪問の予定は
なかった
はずだが…
恋人を
取り返しにでも
きたか？

!!?

お引き取り
いただき
ますか？

いいや…
面白いじや
ないか…



カイル様
寢させ寢させ

え

お通ししろ
今…
ここに



それと…
お前はしばらく
黙っている



却下

あああの…
何か服を
いたたく
事は…



昨晚の事は…

声が…

…!?

私から
あの男に説明
してやる—

案ずること
はない…



危急の用事が
ありましたので
ここへ…

昨晚…
私の部下が
出かけたきり
戻らず

彼の乗っていた
ドラゴンだけが
ただならぬ
様子で屋敷へ
戻ってきました

事情を
知るため
王女殿下の
お力を借り

そのドラゴン…
ニギギから話を
聞いたところ

「部下は
悪党に攫われた
と…」

やはり
捨てゼリフが
悪党っぽいのが
ダメだったん
ですかねえ

ね？
キトラ様…

黙って
いなさい！

痛い痛い痛い



では……

そこにいる
私の部下を

あなたが
攫ったのに
間違いはない
と……?

そうだと
も
アルフレート・
ド・デイス……



その
騎士崩れが
道に落ちていた
のでな

拾って
愛でていた……

チリ!



この男が
貴殿の恋人
らしいな?
なかなか
よく躰けて
ある……

感度がよくて
楽しめた

感度って
なんの話だ

ああああ

記憶がない

……ふっ





カイル・
トゥーリは私の
恋人ではない

伴侶だ

ここは公の場で
そこを
間違えないで
もらおうか

勝手な事を

はあ

!?

初耳

突然何
言ってるんだ
この人…!

はっ

思い込みが
激しいのが
辺境伯の気質か？

そむそむそむ…





……なんの
真似だ



あなたが
カイルを救って
くださったの
でしょう？



カイルが
女に刺され

突然現れた
魔族に連れて
行かれたことが
わかった



ニニギは
早とちりな
ドラゴンなので
詳細に状況を
聞いたただした
ところ



そして…



これは
私が失礼した

カムイ…
辺境伯一行を
客間に通せ

はい！
喜んで！

……



貴殿らは…

我が里に
生息する
ドラゴンが目当て
なのだろうか？

ドラゴンを
定期的に手に
入れられれば

国防の面で
ニルスは
他国より優位に
なるからな

下心は
あるが…

必ずという
わけでは
ありません

それに…
我々も安定した
食料や衣料…
医術など

多くの
ものを提供
できます

そして
何より…

上辺だけで
なく

真の絆と
するために…

私は
北に住む同胞
として

あなた方と
新しい関係を
築きたいと
思っている

……





カイル・
トゥーリを…

私の弟を

魔族の里に
返して
もらおうか

……

え……？



カイルが
持っていた
ペンダントには

父の魔力が
残っていた



俺が

キトラの
弟…?

第10話(前編)



そして
何より…

そこに
いる
カムイの
能力で

カイルの血から
アル・ヴィースの
血脈を認めた



生き別れの弟を
引き取るのは
兄の役目だ…



すみません…

母君の搜索を
お手伝いした
本当の理由は

カイル様の
血をいただき

キトラ様との
血縁を確認
したかったから
なのです…

我が里に
来い…

カイル

そんな…

国同士の
和平が
なったとて

半魔は
人の世では
生きづらい

何せ…

産みの親から
疎まれる
くらいだ

拠り所も
なく…

人間たちの
憎悪に晒され

さんざん
不幸な目に遭って
きただろう？

不幸……

そうじゃ
なかったとは
言い切れない

でも
俺には…

寄り添って
くれた
家族がいる

半魔族の
俺を

受け入れて
くれる
人たちがいる

それに――



勝手だな
俺は……

アルフの手を
振り払うのは

いつだって
俺なのに



その手を
差し伸べ
られないと

ひどく寂しいと
思ってしまう……



一年か

半年か

数年か……



長い旅くらいは
構わない……

待つ



飽きるまで
魔族の里に
いてもいい……





それでも
もし帰って
こなければ

迎えに行く
だけだ



カイルが
降参するまで…
何度も……

だが…
カイルは
きっと私のもとに
戻ってくる…



しつこい
自覚はあったん
ですね…

よかった…

ホミ



私は
しつこいん
でね…

閣下…



キツ
まったく
不愉快だ





……



まだ実感が
なくて……

あなたが……
俺の……



お前は父に
会いたかった
ようだが……

奴は死んだ



だが……



お前には

兄である
私がある……



暴虐だった
奴の圧政を
終わらせるために

一族のものが
謀反を起こし……

相打ちで
死んだ





とりあえず…

お前の
男の趣味が悪い
のはわかった…



嫉妬深い
男はやめておけ

嫌になったら
いつでも里に
来るんだな…



客人の
お帰りだ—…



でも――



刺されたのは
つい昨日の
ことなのに……

帰ってから少し
熱が出た以外は
不調もないし
もう
傷口は完全に
塞がっている



辺境伯……



刺された
時の灼ける
ような痛みは

傷が癒えても
はつきりと
思い出せる……







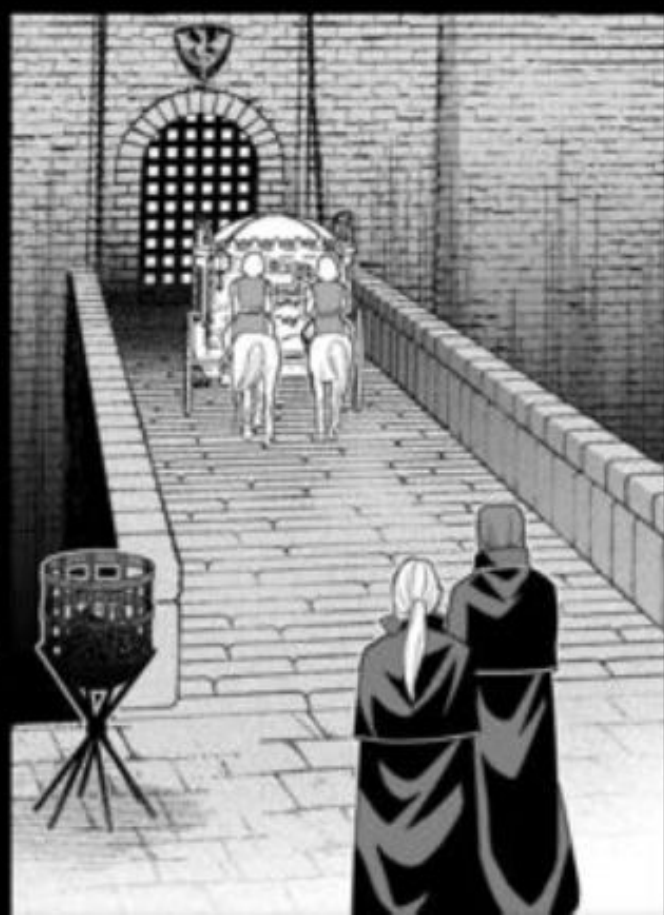


第10話(後編)











.....



父上が
気にかけて
いるのは

辺境伯家の
子息としての
行いだ...



あの方が
アルフレート様？



お会いできて
光栄ですわ！

辺境伯家の
末の弟君の...
なんて
美しい方
なのかしら...



辺境伯である
お父上の
偉大さは

かねがね
伺って
おります...



手柄を
持っていくのは
いつも
アルフレートだ



は？
くだらない…



仕方ないさ…

重大な任務を
任されるのは
あいつの班ばかり
だからな



辺境伯の
息子と
いっても

所詮は庶子
だぞ？

ハインツ…
聞こえるぞ



幹部の連中
ときたら

何を必死に
取り入ろうとして
いるのやら…

全く
不愉快な！

ただの蟲屑^{ひいき}で
任せられる仕事
ではないこと
くらい

わかってる
でしょうに…

とりあう
必要はない

任務を果たす
ことができれば

なんの問題も
ない…

そう…

なんの問題も——…

あ…っ

アルフ…！

……じゃ
なかった…

アルフレート…
様…



私自身が評価
されている
訳ではない

父上が団に
多額の寄付を
贈っている
からな…

上の連中が
勝手に配慮した
までだ

ふーん…

そういえば
アルフの家って
すごい金持ち
なんだっけ

まあな…

飛竜騎士団の中で
知らないのは
お前くらいだ

^^…

俺は他の
団員と違って
ただの孤児だし…

アルフが
どれくらいすごい
貴族なのか
わかんねーけど

別に
いいかな…



だって

アルフが
優しくて

すげー
いい奴だって
知ってるから

それでいいや

アルフは
アルフじゃん



アルフ……?

どうかした?



いいや...



カイル……

お前は本当に
可愛いな……

